

令和4年第2回日野市環境審議会 議事要旨録

■日時 令和4年(2022年)7月21日(木) 午後2:00~午後4:30

■場所 日野市防災情報センター 災害対策本部室

■出席者:

審議委員(11名出席 4名欠席)

理事者1名

荻原 弘次(あいさつ後、公務のため退席)

事務局5名

小平 裕明(環境共生部長) 中平 健二郎(環境保全課長)

高木 秀樹(環境保全課長補佐) 菱山 哲 山口 真弘 大平 健司

傍聴者

0名

■会議次第

1.開会

2 副市長挨拶

3.審議

日野市環境白書について

4.事務局より連絡

5.閉会

委員 P7 の変化する社会情勢の中の環境と書かれていますが、中の文章を読ませていただくと、ほとんどがCO₂のことしか書いていない。今、変化する社会情勢で一番大事なのはコロナの話。それがどこにも書いていない。この前の部分に書いているが、日野市は水害に対しての災害がかなり心配。そういう地球温暖化の水害についても書かれていない。ここに書いてある CO₂ 以外のことについても、社会情勢の変化があるのではないか。1章の中で、資料〇でいただいたごみの2位について書いてあるが、プラスチックはごみの中に入るのか？プラスチックも入れたならば、もっと下がるのではないか。

事務局 ごみのカウントについてですが、リサイクル・再資源化できているものについては除いている。

(※ 後日、確認したところ資源ごみも含めた総量でした。プラスチックもごみの中に入っております。訂正いたします)

委員 プラスチックはごみに入らないという認識でよいでしょうか。

事務局 再資源化できているものは入っていない

委員 他の市であれば、プラスチックがごみとして入っている可能性があるけれども、日野市はプラスチックを除いているので少なくなったということでしょうか。

事務局 確認して報告します。

委員 文章の表現としておかしいと思ったものを指摘させていただきます。。大坪市長の「はじめに」で、真ん中より下の文章で間接的あるいは、直接的とありますが、こういう表現ですが。日本語として、直接的が前に来るのが一般的ではないかと思えます。また、その下の章の「問うている」という日本語は、「問われている」ではないか。「問うている」は ask、問われているは being asked、我々が問われているという表現が良いのではないか。「ステークホルダー」という言葉がありますが、近くの友人たちに聞いてみたら、「なにこれ」となっていた。こういった会議体ではよいかもしれないが、一般化すべきではないか。

P3 「人間の影響によるものである」という言葉は「人間の活動の影響」か「活動によるもの」ではないでしょうか。

P7 真ん中より下「原油価格の上昇が続くと予想されます、すると電気代における・・・」とありますが「すると」が続く表現はおかしい。最初の「すると」は「そのため」、次は「結果として」と変えるのが良いでしょうか。

事務局 表現等わかりやすく修正していきたいと思えます。

「人間の影響によるもの」は IPCC の報告書の文書の引用になります。わかりやすい表現へ検討・修正いたします。

委員 P7の私が指摘したコロナ等は書いていただけののでしょうか。

事務局 ウクライナだけでなく、コロナ等も大事な内容だと考えております。すべての問題を記載することはできないと考えております。

委員 でしたら、変化する社会情勢というタイトルを、適切なタイトルへ変えたほうが良いのではないのでしょうか。

事務局 表題にあわせていくのか、内容に合うように表題を変えていくか検討していく

委員 P10(1)環境の現状の項目のなかの 4 行目 カギ括弧の中に()をするべき。カギ括弧はおかしい。変更したほうがよろしいと思います。

事務局 ありがとうございます。修正したいと思います。

委員 P11 ここがポイントという部分の“過去の浅川は流れる水が黄色く、水底はぬるぬるだった”だったものの・・・”という表現の、“だった”という表現が続くのはおかしい。

事務局 ありがとうございます。修正したいと思います。

委員 P14 最後に「wellbeing」という言葉が出てくる。大変良い言葉だと思うが、急に出てきまして、なぜここで急に出てくるのか。どうせだったら大きく取り上げてもらったほうが良いのではないか。

事務局 Wellbeing という言葉は近年よく出てくる言葉となっている。持続可能な社会をつくるため、環境の大きな目標として持つべきではないかと考え、反映した。言葉をどう使うか改めて検討する。

委員 P10 グラフの中の表記について4,25%?となるのでしょうか。多分違うと思いますが、4.25%でしょうか。多分表記を変えたほうが良いと思います。

事務局 4.25%ではなく、4 件25%が正しい表現になります。表現を修正いたします。

委員 他にも同じような表記になっている箇所がありますので、併せてお願いします。

事務局 分かりやすい表現へ修正いたします。

委員 全体を通して、各分野の市民のコメントについて、本当に市民のコメントなのか。またこれに対する市の対応の記載があって良いのではないか。市民のコメントの部分に書いてもよいのではないのでしょうか。またいただいた市民の年齢・こういった場所でいただいたコメントなのか示していただければ。

事務局 市民のコメントについては、第 2 次環境基本計画の策定から推進までかかわって
くれているグループごとの会議体がございます。その会議体の代表者に、書いていた
だいでいるものになります。市民のコメントについて、グループの会議の中で回答し
てきておりましたが、今後については見えるようにしていきます。市としてのコメント
はまだ十分に検討できておりませんので、本白書に掲載できないかもしれませんが、
何らかの形で示せるようにいたします。

委員 今後は回答を検討していくということでしたが、環境白書に載せるということはそう
いうことではないのではないのでしょうか。それぞれのグループに回答するのではなく、
環境白書に載せるということは、環境白書として正式なコメントがつかないと何か中
途半端な形になってしまい、載っているだけになってしまう。
関連して、P82, 83 にそれぞれのグループとして書いたものがあるが、前にある市
民のコメントと相当するものではないのでしょうか。何か中途半端な形になっている
ので、市民のコメント、P82.83 をまとめて、市はどう考えているのかを載せてもら
いたい。

事務局 市民のコメントについては、7 章にありますように、この 11 年間、第 2 次環境基本計
画の推進と一緒に取り組んできたメンバー、いうなれば仲間になります。その推進状
況を記載したものになります。なので 1 年間を行ってきたものを整理したものです。
また市民のコメントについては、環境白書における環境の現状の取り組み・評価につ
いて書いていただいております。そうした中で、市に対して御意見、こうあるべきと
いう部分も載っていますので、その部分については、これまではグループについて回
答しておりましたが、皆様の目に届くようにしていきます。

委員 環境白書はグループに対する答え・思いだけでなく、もっと市全体に対して出すと
いう重みが違うと思いますので、安易に入れ加えるのは違うと思う。削除、または別
紙や何かにしたほうがいいのではないかな。

事務局 ご意見として受け止め、記載の仕方について検討いたします。

委員 表記方法について、P50のグラフの下にあります「前ページ」の指標」とありますが、この前の言葉について「上記の図3. 4. 2については前ページの」と続いたほうが
読んでいる人が分かりやすいのではないかな。P52ですが、一番下の行、「繁栄」は「反
映」だと思えます。

委員 P58の一番下 苦情の件数が増えているのですが、「騒音が在宅化の進行によって気になるケースがみられる」とあります。クレームが考えられるのではなく、すでに騒音が問題となっている、原因となっているとすることができるのではないかと。野焼きも同じく、野焼きが原因だと考えられるのではなく、野焼きが原因ではないのか。言い切る記載ができないのは、ほかの原因も考えられるということか。

事務局 騒音が気になるだけではなく、悪臭も野焼きだけではなく、こういったケースが騒音や悪臭の苦情につながっているのではないかと考えている。生活の中での苦情が増えている中で、何が原因か考えている中で、ケースという言葉を使っている。原因の一つではあるのは間違いない、表現の仕方を考える。いくつかの苦情の中では、原因となっている。

委員 P58 のグラフが気になる。データのとり方を変えたというお話がありましたが、もう少し詳しく、「その他」とは何かを教えてほしい。かなり苦情件数が増えているので問題ではないか。

また先ほどあった市民のコメントは、生活環境分野についてはない。苦情件数というのは市民のコメントではないか、市民の意見の大きな項目ではないか。苦情件数の中身を教えてほしい。

事務局 その他の詳細については、後日、データを確認し、記述いたします。

委員 市民のコメントが、それまでの分野にあって、生活環境にないのはなぜか。

事務局 水・みどり・ごみ・CO₂ はグループの会議体は存在します。生活分野としてのグループはないため、コメントが存在しません。

委員 苦情件数のグラフですが、2019と2020年をそのまま並べるのは良くないと思う。1 件の苦情について、複数の分野にわけるように 2020 年から変わったのならば、このグラフではなく、正確に表すため傾向を苦情件数とその中身と別にしたほうがいいのではないかと。

事務局 これまでと同じ総件数と新しい表現を取り入れていくようにいたします。

委員 先ほど委員からあったように、市民のコメントについて。環境影響評価法に基づくものとする、一般市民の意見も受け入れますが、アセスメント側がすべて対処しなければならないわけではない。市の環境白書なので、必ずしも同じにしなければいけない。

いわけではない。委員のおっしゃるように、すべての項目についてあるわけではないので、別に切り分けてもよいのではないか。

委員 予算についてですが、昨年度予算について質問した時、“一番多いのがごみ関係、次に下水道の関係が多い”と質問させていただきました。“ごみに関しては、白書に記載されているので内容が分かりますが、下水道については何も環境白書について書かれていない。書いていただけないか”とお話いたしました。まだ生かされていないと感じる。ごみが無くなったので、一番多いのが下水道。下水道について、どういう風に、どういうことをしているのか書いていただきたい。唯一書いているのが、下水道の普及率。去年から今年にかけて、0.1%上がっている。たかが 0.1%あげるために、この金額が、環境全体で 51 億の中の 30%が下水道で使っている。それなのに、環境白書の中で記載がない。白書に記載すべきではないのか。

事務局 下水道課へ確認し、調査いたします。

委員 白書全体を通してのフォントの統一や表・図の示し方の統一があるとぱっと見の市民の見やすさが上がるのではないか。例えば、表が太枠になっていたり、2重線になっていたり、さまざまな人が作っているためだと思いますが、ルールを作って整えるといいのではないのでしょうか。意見としてお伝えします。

事務局 出来る限り反映いたします。また来年度作り出す前に、検討したいと思います。

委員 委員の指摘している下水道の進捗率について、0.2%しか進捗していない。環境を取りまとめる部署としてしっかり意見を述べるべき。96%でいいではなく、100%でなければいけない。なぜ 3 年間で0.2%しか進捗がないのか。なぜなのか、という質問があったときにしっかりこたえられるよう確認して整理すべき。

委員 P66 環境への取り組み状況、こういう一年間の実施日、テーマ、内容、こういう報告が多々あると聞いている。これにもう一步。これがどうだったのか。行政側がこれだけの行事、取組みをその結果どうだったのか。もしくは前年度と比べてどうだったのか、市民へアプローチをしていると思う。その辺の全体的な総括。各課の取り組みの結果として、どうだったのか。例えば人数が減っている、これがどうしてか、内容によるものか、PR のしかたかもしれない。その辺のコメントも必要ではないかと思う。ただの報告に終わらず、せつかくこれだけのことをしているのだからもう一步踏み込んで、内容的なこともしっかり評価して、次につなげる表現も必要ではないか。

事務局 やったことが書いてある状況になっている。長年続けている事業がたくさんありますが、何のためにやっているのかが分からなくなっているところもあると思う。どんな成果があったのか、どんなところに力を入れていくべきなのかといういいきっかけになると思うので、職員の中で考え直す機会として、今回は反映できないかもしれないが、少し踏み込んで調査していきたい。

委員 日野市に関係するバイパスなどの環境影響評価や公害調停、東京都の公害審査会などにかかっている案件があれば、そういったものも環境白書に記載して市民にこういう問題があって、こういう調査が行われている。市民がそういう意見を述べている、経緯もふくめて市民参画を促す一環として市民に知らせるべきではないか。

事務局 調査いたします。

委員 最終ページのエコクマエコアラと書いてあるコメントは何に対してか。表紙についてみると、あつあつおばけになっている。それよりクマコアラが良いのでは。前回の会議であったあつあつおばけをみせてもらいましたが、アツアツに触れておらず、もったいないになっている。子ども目線ではあつあつおばけが理解できないのではないか。動画だけでは理解できない、と思うのでクマコアラのほうが良いと思う。

事務局 最後の裏表紙に絵を載せております。その説明になります。今後、気候危機に本気で取り組んでいく啓発の一つとしてあつあつおばけを活用していく。そのため、今回は表紙とさせていただきます。

委員 あつあつおばけが大人目線でみればわかるが、子ども目線では理解できないと思う。もう少しわかりやすい啓発を行うべきではないか。

事務局 たしかに分かりにくい部分はあると感じている。環境学習のコンテンツを増やし、子どもたちに伝えていく。

委員 P3 第4次日野市地球温暖化対策実行計画の策定について、委員会の中でもお話ししましたが、IPCCの第6次報告がワーキンググループ2までは公開されている。最新のものが出てきているので、環境省でもより深刻な報告になっているので、IPCCの6次報告をこうしているなど最新の内容を入れたほうが良いと思う。

委員 P3についてですが、台風の写真はおとし、2019年くらいの内容となっている。台

風は今年会ったものではない、昨年の白書なので、工夫をした方が良いのでは。

事務局 近年、日野市民が直接的に気候変動・温暖化の影響を感じたものは、令和元年の台風 19 号と私たちはとらえている。橋脚が沈み込むや 8600 名が一時避難するといったこともありました。浅川が今まで見たこともないような水位になったこともあった。温暖化というものを身近に感じた事象が台風 19 号と考えているため、このように示しております。

委員 P89 ワットチェッカーの貸出等にありますが、P55での貸出件数ほぼない状態であるが、P54 をみると両方ありませんとなっている。ワットチェッカー等の貸出は今後もしないということなのでしょうか。

事務局 コロナによって途絶えていたため、啓発できていなかった。エネルギーについて真剣に考える市民が増えてきていると感じているため、啓発を行っていききたい。

委員 日野市民の割合とワットチェッカーの貸出の割合を見たときにほぼゼロになってしまう。年間 1 件というような事業を継続する必要があるか。削減の方向に力を入れていくとあったときに、ワットチェッカーに触れられていなかったため、確認したい。

事務局 ワットチェッカー等を含めた啓発が全くできていない。大きな目標としての気候危機にどう立ち向かっていくのかを考えていく中で一番身近なものが放置されていた状況になっている。必要か必要でないか含めて検討していく。

進行 ここまで出た意見をまとめたいと思います。

1.市民のコメントについて、すべてについてあるわけではないのでなくてもよいのではないかな。

2.予算について、額が大きいものの内容が分からなくなっているので、こういったものこそ白書に記載すべきではないかな。

3.取り組みについて、ただの報告となっているので次につながる表現にしていく必要があるのではないかな。

4.環境影響評価や公害調停についても、市民に知らしめるべきではないかな。

これらの意見を環境審議会の意見を環境白書に反映していただきたいと思います。

よろしいでしょうか

(異議なし)

以上を持ちまして、審議を終了いたします。